



## はじめに

この章は、次の項で構成されています。

- [今回のリリースでの新機能 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco コンテンツ セキュリティ管理の概要 \(3 ページ\)](#)

## 今回のリリースでの新機能

ここでは、AsyncOS for Cisco Content Security Management のこのリリースにおける新機能と拡張機能について説明します。

表 1: AsyncOS 12.x の新機能

機能	説明
新しいハードウェア モデルのサポート	シスコのコンテンツセキュリティ管理アプライアンス向け AsyncOS 12.5.0 リリースでは、次のハードウェア モデルをサポートしています。 <ul style="list-style-type: none"><li>• M195</li><li>• M395</li><li>• M695</li></ul> 詳細については、「 <a href="https://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/security/content-security-management-appliance/datasheet_C78-721194.html">https://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/security/content-security-management-appliance/datasheet_C78-721194.html</a> 」を参照してください。
設定マスターの複数のサブセットの管理	特定のバージョンの設定マスターのサブセットを設定して、Web セキュリティアプライアンスのさまざまなポリシー設定を一元的に管理できるようになりました。詳細については、 <a href="#">Web セキュリティアプライアンスの管理</a> を参照してください。

機能	説明
<p>ケースブックを使用した脅威分析の実行</p>	<p>Cisco コンテンツ セキュリティ管理アプライアンスに、ケースブックとピボットメニューのウィジェットが追加されました。</p> <p>(注) Microsoft Internet Explorer ブラウザを使用してアプライアンスにアクセスしている場合、[ケースブック (Casebook)] ウィジェットを使用することはできません。</p> <p>[ケースブック (Casebook)] ウィジェットと [ピボットメニュー (Pivot Menu)] ウィジェットを使用して、アプライアンスで次のアクションを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観測対象をケースブックに追加し、脅威分析の調査を実行します。</li> <li>新しいケース、既存のケース、または Cisco Threat Response ポータルに登録されているその他のデバイス (エンドポイント向け AMP、Cisco Umbrella、Cisco Talos Intelligence など) の監視対象をピボットし、脅威分析のために調査します。</li> </ul> <p>詳細については、<a href="#">Cisco Threat Response との統合</a>を参照してください。</p>
<p>Cisco Threat Response ポータルでアプライアンスを登録するときに Cisco Threat Response サーバを選択する機能</p>	<p>アプライアンスを Cisco Threat Response ポータルに登録するときに、Cisco Threat Response ポータルにアプライアンスを接続するための Cisco Threat Response サーバを選択できるようになりました。</p> <p>このリリースでサポートされている Cisco Threat Response サーバは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>米国 (api-sse.cisco.com)</li> <li>欧州 (api.eu.sse.itd.cisco.com)</li> </ul> <p>詳細については、<a href="#">Cisco Threat Response との統合</a>を参照してください。</p>
<p>新しい Web インターフェイスの [マイレポート (My Reports)] ページ</p>	<p>カスタムレポートページを作成するには、アプライアンスの新しい Web インターフェイスにある既存のすべての電子メールセキュリティレポートからチャート (グラフ) とテーブルを構成します。</p> <p>詳細については、<a href="#">新しい Web インターフェイスでのレポートの使用</a>を参照してください。</p>
<p>新しい Web インターフェイスでのポリシー、ウイルス、およびアウトブレイク隔離の設定</p>	<p>アプライアンスの新しい Web インターフェイスから、ポリシー、ウイルス、またはアウトブレイク隔離を設定できるようになりました。</p> <p>詳細については、<a href="#">集約されたポリシー、ウイルス、およびアウトブレイク隔離</a>を参照してください。</p>

機能	説明
Swagger UI を使用した API の管理	<p>Swagger は、OpenAPI 仕様に基づいて構築された一連のオープンソースのツールです。</p> <p>Swagger UI を使用すると、Web インターフェイスでの AsyncOS API リソースの設計と管理が容易になります。</p> <p>詳細については、<a href="#">セットアップ</a>、<a href="#">インストール</a>、および<a href="#">基本設定</a>を参照してください。</p>
Web 使用状況分析のモニタリング	<p>統計分析のために Web サイトの使用状況またはアクティビティの送信を有効または無効にすることができます。</p> <p>詳細については、<a href="#">一般的な管理タスク</a>を参照してください。</p>

## Cisco コンテンツ セキュリティ管理の概要

AsyncOS for Cisco Content Security Management には次の機能が統合されています。

- **外部スパム隔離**：エンドユーザ向けのスパム メッセージおよび疑わしいスパム メッセージを保持しており、エンドユーザおよび管理者は、スパムとフラグ付けされたメッセージをレビューしてから最終的な決定を下すことができます。
- **集約ポリシー (Centralized Policy)**、**ウイルス (Virus)**、**アウトブレイク隔離 (Outbreak Quarantines)**：これらの隔離および隔離内に隔離されたメッセージを複数の E メールセキュリティアプライアンスから管理するための単一のインターフェイスを提供します。隔離されたメッセージをファイアウォールの背後に保存できます。
- **中央集中型レポート (Centralized reporting)**：複数の E メールおよび Web セキュリティアプライアンスからの集約データに関するレポートを実行します。個別アプライアンスで使用できる同じレポート機能を、セキュリティ管理アプライアンスでも使用できます。
- **中央集中型トラッキング (Centralized tracking)**：単一のインターフェイスを使用して、メールメッセージを追跡すること、および複数の E メールおよび Web セキュリティアプライアンスにより処理された Web トランザクションを追跡することができます。
- **Web セキュリティアプライアンスの中央集中型構成管理 (Centralized Configuration Management for Web Security appliances)**：簡易性および一貫性のため、複数の Web セキュリティアプライアンスを対象にポリシー定義とポリシー導入を管理します。



(注) 中央集中型の電子メール管理、または E メールセキュリティアプライアンスの「クラスタリング」にセキュリティ管理アプライアンスは含まれません。

- 中央集中型アップグレード管理（Centralized Upgrade Management）：単一のセキュリティ管理アプライアンス（SMA）を使用して、複数の Web セキュリティアプライアンス（WSA）を同時にアップグレードできます。
- データのバックアップ（Backup of data）：レポーティングデータ、トラッキングデータ、隔離されたメッセージ、安全な送信者とブロックされた送信者のリストなど、セキュリティ管理アプライアンスのデータをバックアップします。

1 台のセキュリティ管理アプライアンスからのセキュリティ操作を調整することも、複数のアプライアンス間に負荷を分散させることもできます。